

## お元気ですか福田さん

川 畑 敏 則

遅れ遅れになっていた福田さんの追悼論文集の原稿。数日前から気になり始め今日は絶対書くと備忘録にも「福田さん原稿」と朱書きをし、ほかの人は原稿を出したかどうか気にかかり、センター職員に話すと「もう出しましたよ。締め切りはとっくに過ぎてますよ！ ちょっと待って！もしかして今日は福田さんの命日じゃなかったかな？」机に戻り手帳を調べると。3年前の今日の日付で「福田一志が死んだ」と書いていた。今日は福田さんの命日だった!!福田さんが「こら！はよ原稿出さんか！さばけんやっちなー」と怒っていると解釈した。

「朝夕肌寒くなりました。福田さんお元気ですか。そちらの生活にも慣れられたことと思います。そちらは釣れますか。僕は、出張が増えその度に大村の空港へ行くのですが、空港の前の海で福田さんと夜釣りをしたことを思い出します。あの頃は二人とも独り身で、長期の調査のために大村に家を借りて住んでいましたね。あの頃は夏でした。たまたま二人とも釣りが好きで、チヌ釣りにはまっついて、現場が終わると車に竿を乗せて釣りにいきましたね。あまり釣れませんでした。現場の暑い陽射しで火照った体を海風が思い出したように撫で、妙にゆっくりした時間だったことを思い出します。

福田さんが上対馬高校に勤務になった時も釣りにお世話になりましたね。対馬は魚が湧いていると信じ、比田勝であった研究発表に釣り竿を抱えて行きました。あの時は2月。しかも雪が降り大時化の中のチヌ釣りでした。外磯には出られずに湾の中の奥まったところで釣りました。チヌは釣れなかったけど大きなアラカブが釣れましたね。でも寒かった。夜が明けると風も少し止み、今度は外磯に行きましたね。石がごろごろしたところを通過して、岩場をはいつくばって途中落ちそうなところをロープ伝いに進んで、波しぶきをかかりながら40分ほど歩いたのでしょうか。着いた所は大きなうねりが真っ白なサラシ場を作る、チヌではなくクロ（メジナ）のポイントでした。大きな荷物をしょい、冬なのに汗びっしょりになってきつかったけど、「せっかく対馬まで来たんだから良い場所で釣らせてやりたい」という福田さんの思いを強く感じました。だけど、フグしか釣れませんでした。帰りに、うんと手前の、車を止めたすぐ傍の波静かなところで大きなクロがバンバンつれていました。あまりにも時化すぎて魚は波の静かなところに避難していましたね。

福田さんとの釣りではあまり釣れた覚えはないのですが、楽しかったです。きっと釣りをしながらいろんなことを話していたんだと思いますが、何を話していたのか思い出しません。まだ、20代の後半だった二人なので、気になる女性のこと。仕事のこと。将来のこと。そんなことを話していたんでしょうね。

福田さんがあっちへ行ってしまいう前に電話で「来年そっちへ行ったら、また釣りしよう」と言っていましたね。壱岐にも福田さんが連れて行ってくれた場所に負けない良い場所があります。今度僕が釣りに行く時は、荷物の上にひよいと飛び乗ってください。今度僕が連れて行きますよ。海を見ながら50代の話をしましょうか。」

二人とも若かったので夜の街の思いでもたくさんあるのですが、他の方が書かれると思いますのでそちらに譲ります。